

358

岸澤古藤次

後藤本古藤次

文化元年三月都座に右和佐の上調子。文政三年四月河原崎屋に始り三結格となり。その後も右勤者より文政九年一月造酒長内松藏年と常松名津と考り(常)十年造酒大夫由世名賀再興につぎ松藏と共に三味線とつたり

359

二代目佐々木市藏

山岸澤八五郎 後三曾山岸澤市藏 (寛政一〇、文久)

文政四年三月河原崎屋造成舟送行上り右和佐の上調子と勤者初め芝居に右勤者(三四才)常北後松藏年五郎(常)上調子と勤者より文政七年六月河原崎屋に三結格となり。文政八年三月(十八才)河原崎屋に始り四代目小文字大夫の夕テ三味線と勤者。文政九年三月河原崎屋にて岸澤市藏となり(常)北後。天保三年七月三代目造酒大夫文賀改名指露合に四代目小文字大夫の夕テ三味線と勤者。天保四年七月四代目小文字大夫の夕テと勤者(二〇才)市藏と勤者(り)天保七年(三十三才)中村座に二代目佐々木市藏を襲って四代目小文字大夫の夕テと勤者。弘化元年三月河原崎屋生勤後夕テ芝居に去り(一〇)文久元年二月市村座に出勤(同年五月十八日にまう病死せり)本名西村徳藏。岸澤九藏。四女武佐の若子なりて初代市藏の孫に当ると云う

「老の樂」に三藏よく古風の風格を稱し此二日を賞用せり。且竹の技著の大夫をいかりて佛像をけがらすと云う。享年一十四才法名釋慶威信士。築地本願寺中善林寺に葬り。濱の弟子は後富本に入りて三代目田長と名けり(五郎)及いりて目徳次と名けり。前藏國大夫。丹毒大夫等あり。作曲に朝顔日記。堀の明烏。忠臣藏三段目。四段目等あり。(英哲墓碑の記あり)

山岸澤翁藏

二代目右和佐の實子で一説に病氣が長の腰の女に病を伝へられたり云々。
 文政五年七月河原崎屋の忠臣蔵上より以上調子に始り出(第)文政八年六月
 河原崎屋の仲助の上調子と勤めを以て末五代目武佐の上調子とていふく
 去勤天保元年三月四代目小文字太夫名弘女漫習会には「老松の夕
 八月中村屋の夕テ三味線と名(第)十月市村屋には武佐と共に夕テ
 三味線とていふ。天保三年晩よりその名を番附連名より遷す

二代目岸澤五郎

初古市佐々木八五郎

初名古市文政八年三月河原崎屋の忠臣蔵上より以上調子に初老五郎の
 去勤(第)同年六月二五(五郎)と改名せり。天保三年八月河原崎屋の小文字
 太夫連中にて夕テ三味線の師市藏中日より仔志や代り夕テ三味線を勤
 け(第)天保五年七月岸澤市造佐々木を名乗ると共に佐々木八五郎と名
 以後その名なり。此の人天保十四年より富本に入り右見崎、五郎と名なり三代目
 里長と名なりと富本方に云々(第)

子百余人におよび、家内ゆたかにくらいつ、芸八身を助
 るとハ是等をやいふべし、

巻六

山岸澤

三味線(重政五)明治七)

三代目武助佐の四代目武助(五代目武佐)の弟子。文政十二年二月
 中村屋の始り上調子に出勤(第)天保三年十一月市村屋「蘭」館に
 五代目武佐の上調子と勤め、その後も仲助の始り上調子と勤め、安政
 元年八月河原崎屋にて夕テ三味線格と名。山岸澤常磐津不相と名なり
 隠居し概系亭三樂と称し明治七年五月七日(十二)をもちて終す。
 本郷赤肉の法蓮寺に葬す。

363 初代岸澤文左衛門

初和助 妻仲助

文政五年八月申村産にて二女右和佐の上調子と始りて勤業(業)後文政八年
初代仲助式佐と稱す其初聖九年三月申村産にて二女仲助と名り(業)
天保三年豊後掾百年忌初女文字太夫五十年忌初女小文字太夫名取也
湯沼合に喜代太夫の夕三味線を勤め 天保六年正月森田産に文左衛門
と改む(紋番)同年五月申村産に五代目式佐の上調子と勤り(以後式佐は係
上調子に勤め 天保七年筑城産に初めと立三味線松と名り、其初式佐は
治平の夕三味線と名り勤業 豊後大掾の夕三味線を勤りか嘉永六年
以後その名を番附歳旦本年の見事故に改死改せしむ人
麻布日ヶ谷産に生む

364 岸澤市太郎

天保六年正月森田産に五代目式佐の上調子

365 岸澤金五郎

天保九年九月河原崎産に文左衛門の上調子

366 二代目岸澤金藏

終金齋

天保四年森田産初見五に上調子連名中とあり 天保十一年二月中村産に
五代目式佐の上調子 嘉永六年金齋と改め安政四年七月中村産に三女
相十萬億と名り小文字太夫の夕三味線と勤りたり 安政五年
甲府にて死す

367

回岸澤和歌吉

露月町三代目若大夫の實子。声かたつて三弦弾きと成る。天保十四年より其の上調子中に見之。此の引手茶屋へ養子に入ら。岸澤分惣持は岸澤政以属し佐九藏と共に三味線格となり。其後に於て。安政五年八月其日三十一才に没す。法号秋月輝峯信士。海防寺中一乘院に葬ら。

368

岸澤文字八

天保十年七月河原崎屋に三代目成佐の上調子。安政六年以後の番附蔵且にその名を記載する事を見よ。その頃政也もつた人。上調子格にて終り。初代文字兵衛、文字助は傍の弟子なり。

369

岸澤喜助

天保十年二月市村屋五右衛門の上調子。

370

三代目常船名津文左衛門

此の岸澤喜助

天保六年正月より初代文左衛門の上調子とてその名見ゆ。天保十二年八月市村屋五右衛門の上調子。廻町六丁目に住す。柳橋三光とてうね向の父なり。林中末上人曰く、岸澤分惣の時三代目文左衛門とて、一か其はあまうとなく其後にも殆んど世に於て。